

## 筑後川デ・レイケ導流堤について～今後の抱負とともに～

八女支部 八女県土整備事務所 西田 洸史

### 1. 自己紹介

今回の本題について語る前に、まず自己紹介をしていこうと思います。私は昨年福岡県に新規採用職員として採用され、もうすぐ1年が経とうとしているところです。現在は道路維持課に在籍しており、日々目の前の仕事を必死にこなしています。当面の目標は目の前の仕事だけでなく、周りを見て自分にできる仕事がないかを探すことです。そんな私の趣味はゆったりとドライブをすることなのですが、先日佐賀方面に向かっている際に筑後川を渡っていると、川の中に防波堤のようなものを見つけました。実はそれを見つけたのは今回が初めてではなく、大学時代に帰省する際に横を通り、土木を習い始めて間もなかった私は「一体何の施設なんだろうか」とぼんやりと考えた記憶があります。そこで今回(ネタ作りも兼ねて)思い切って調べたところ、その構造物は『筑後川デ・レイケ導流堤』と呼ばれるもので、かなり深い歴史があることが分かってきました。今回この会報に投稿する機会を頂いたので、この導流堤の歴史と感想、最後に今後の抱負について書いていきたいと思っています。

### 2. 導流堤ができた時期といきさつ

この導流堤は1890年に完成し、当時の内務省が主導して事業を行いました。昨夏の豪雨の際もそうであったように、昔から筑後川は暴れ川として知られていて、地元から河川改修の要望があったのも多発する洪水被害のためでした。また、明治時代になると蒸気船が登場し、船が河川内を通るためにより水深が必要となりましたが、筑後川の河口付近の地形は土が堆積しやすいものでした。そのため、航路を確保するために河川内の水流を確保する設備を整えることが必要であり、河川整備の第一段階としてこの導流堤が作られることになったという歴史があります。

写真：筑後川デ・レイケ導流堤 (1)



### 3. この施設を見て思うこと

上の写真を見れば分かる通り、このデ・レイケ導流堤はかなり長いです。その全長は1450mにも及んでおり、Google Mapなどの衛星写真ではしっかりとその姿を見ることができます。私が県職員になる前なら、『重機もないのによく作ったな』くらいの感想しか残らなかったのですが、未熟ながら1年間土木職として働いてからの感想としては、『PCどころか電卓すらないこの時代にどれだけの手間をかけて設計・管理したのだろう』と後悔してしまいます。この導流堤の名前の由来となったデ・レイケ技師はもちろんのこと、当時関わっていたすべての職員・作業員が途轍もない熱意を持って施工に取り組んだことが想像できます。

私が最も驚いたのは、どの本やサイトでも土木“遺産”として紹介されているこの施設が、現在も本来の役割通り、筑後川の流れをコントロールし続けているということです。完成から130年以上が経ってなお、地図に残るだけでなく役割を果たし続けるものを作ることができる。土木という仕事にはこんな魅力があるのか、と教えてくれたデ・レイケ導流堤について知ることができてよかったと感じるとともに、福岡県内に住み続け、土木を学んだ身として今まで知らなかったことを少し残念に思いました。

### 4. 最後に

今回たまたま住んでいる場所の近くで見かけたものについて調べたところ、思っていたより深い歴史があり驚きました。今回調べたことを活かして仕事のモチベーションに、などと大層なことを言うつもりはありませんが、早く一人前に仕事ができるようになり、いずれは大きな仕事も任せてもらえるようになりたいです。そのために今は、「あいつ、頑張ってるな」と思われるくらいの熱意を持って業務に取り組んでいきたいと思います。

出典：(1) 公益社団法人 土木学会西部支部 九州の近代土木遺産

[https://www.jsce.or.jp/branch/seibu/05\\_heritage/wakatu.html](https://www.jsce.or.jp/branch/seibu/05_heritage/wakatu.html)